

(別紙様式6)

平成 29 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分: 萌芽的異分野連携共同研究 共同推進研究
 産学官連携フュージビリティ・スタディ
 共同研究集会 産学官連携課題設定集会

研究課題名: 気候変動が北極域漁業に及ぼす影響の経済評価

研究期間: 平成 29 年度～平成 29 年度

共同研究員	氏名	所属・職名
研究代表者	成田大樹	東京大学大学院総合文化研究科 准教授
研究分担者(拠点外)		
研究分担者(拠点内)	田畑伸一郎	北海道大学北極域研究センター 教授

【研究の内容】

長期的な気候変動が及ぼす経済影響の評価については、近年世界中で多くの研究が行われるようになってきている。しかし、そのうち気候変動の漁業を通じた経済への影響の評価については、分析において生態学と経済学の双方を融合する学際的な視点が必要になるという困難もあり、特にマクロ的視点に基づくもの(地域全体や世界全体へのインパクトの評価)はまだほとんど行われていない。本研究では、地球上で気候変動の影響が特に顕著な地域としての北極域における長期的な気候変動の漁業影響のマクロ的な経済評価を最終目的とし、その端緒となるものとして以下の活動を行なった。

- 11月にドイツ・キール大学の Prof. Martin Quaas を訪問し、気候変動の漁業影響の経済評価手法についての議論・意見交換を行った。Prof. Quaas のグループでは、簡単な統計モデルを用いたバルト海漁業への気候変動影響の研究を現在行なっており、手法に関する知見の取得という意義もあり成田が当該研究に今後参画していくということで合意した。
- 上記のドイツ訪問に合わせ、キール大学の Prof. Katrin Rehdanz を訪問し、経済リスクとしての海洋酸性化問題の政策への含意についての議論を行なった。この議論を踏まえつつ、Prof. Rehdanz 及びアルフレッド・ウェーゲナー極地海洋研究所の Dr. Hans-Otto Pörtner と共に現在論文を執筆中(下の【研究論文や著書等】において言及されているもの)。
- 北海道大学北極域研究センターの漁業分野の研究者らと共同してベーリング海漁業への気候変動影響の経済評価を行うべく、関係者間での議論を行なった(通年)。

【研究論文や著書等】

ジャーナル刊行された論文については特になし

(現在下のタイトル(仮)で論文を執筆中:

Narita, D., Pörtner, H.-O., Rehdanz, R., Accounting for the economic risk of ocean acidification in climate policy: making CO2 emissions reduction even more urgent)

【研究発表】

特になし(本年5月の ArCS 全体会合においてポスター発表を行う予定)

【特許等】

特になし

【アウトリーチ、取材、その他】

特になし